



# 十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第63号

2011.5.3~5 ふるさとのまつり 太素祭



## 共に創っていきませんか 郷土の未来

新渡戸塾塾長・十和田市立新渡戸記念館 館長代理 新渡戸常憲

水をはった田んぼに青い小さな稲の苗が揺れている、なんとあたたかく心なごむ光景であろう。見慣れていたはずの田園風景が、今年はずっと愛おしく懐かしく思えます。

日本で稲作が始まって以来、私たちはずっと稲作中心の国づくりをし、日本の地域社会は近年まで水田とともに発展してきました。明治以降、小さな国土ながら目覚ましい発展を遂げ、世界の大国となった日本ですが、国際化、情報化のなかで、科学技術の進歩や環境問題への関心の高まり、それに伴う選択肢や価値観が多様化、そして高齢化・少子化など社会の様々な面での急激な変化に「心」や「精神」がついていくことができなかつた気がします。そしていつの間にか日本の本来の文化的特質である「道」に共通する「心・技・体」一致のバランスも崩れてしまいました。

震災も経験した今、私たちは世界的な歴史的転換期を迎えています。地域社会が、日本全体が、進むべき未来への「道」を今こそしっかりと考えていかなければなりません。

私たちの地域、十和田市のことを考えますと、地域住民共通の遺産は、150年前に先人たちにより掘削された稲生川だと思えます。十和田市は、稲生川の掘削以来、水の恵みを受けて発展し、現在に至って基幹産業は農業であり、県内第二位の水田面積8890ha、食料自給率291%（カロリーベース）<sup>\*</sup>を誇っています。市発展の礎となった稲生川の掘削と後に続く都市計画は、志を共にした先人たちが職業・身分・世代を超えて一体となったことで成し遂げられたものですが、この民間の活力を活かした地域づくりは150年経た今も続いています。稲生川という地域特有の遺産をめぐり育まれた十和田市独特の地域力は、震災からの復興を考える上で、大きな示唆を与えるものであり、十和田市が誇れる未来に受け継ぐべき力ではないでしょうか。

この度の企画展でとりあげました未来遺産運動（詳細は2面）は、地域の方で受け継ぐべき遺産を守り、活用してゆく活動とその組織自体に着目して、それを奨励するものです。私たちは、稲生川を守り受け継ぐ活動を通じて、同じ志をもつ地域住民のみなさんとともに学び合い、気づき合い、補いあって共に地域の未来を創っていきたいと思っています。

<sup>\*</sup>十和田市の水田面積県内順位と食料自給率は平成17年十和田市調べ

### 童門先生のことば ③ リンゴの木

童門冬二先生の基調講演から、私たちのまちづくりに大切な知恵を数回にわけてキーワードでご紹介します

昨年6月の新渡戸塾開講基調講演の結びに童門先生は、日々幸不幸に翻弄される私たちに、自分自身が支えにしている言葉を教えてくださいました。「コンスタンチン・ゲオルグというルーマニアの作家の言葉です。“スターリン体制下に置かれている今のルーマニア国民は他の国の方と違って一日が25時間だ”という意味で『25時』という小説をこの人は書きました。その小説の最後にこう言っています。“しかし、私たちは絶望しません。たとえ世界の終末が明日であっても、私たちは今日もリンゴを植え続けます。”私は今の世の中において、この言葉が一番大事かなと思います。だれもがリンゴの木を持ち、植えて、育てて、できたおいしい実を他人に差し出していこうというヒューマニズムを持っています。十和田市の皆さんには、いつまでもそのリンゴの木を大事に育てながら恒心<sup>\*</sup>のために新渡戸塾を活用してくれれば、こんな嬉しいことはありません」震災を経た今、改めて童門先生の言葉が強く響いてきます。

<sup>\*</sup>恒心＝人間として常に持つべき変わらない心。

# 平成23年度 新渡戸塾 プログラム

参加  
無料

今年度の新渡戸塾全体テーマは「未来遺産」です



- 一般
- 講座Ⅰ ■ わたしたちの未来遺産 平成23年6月～9月
  - 講座Ⅱ ■ ユネスコと未来遺産 平成23年10月～12月
  - 講座Ⅲ ■ 地域遺産としての博物館 平成24年1月～3月
  - 実践プロジェクト ■ とわだ時空調査隊 (前年度から継続)

- こども
- 寺子屋稲生塾 (十和田市教育委員会 共催)
- ① 6月18日(土) 新渡戸稲造の武士道精神を学ぼう
  - ② 7月9日(土) 150年前の大行灯をつくろう
  - ③ 7月30日(土) 太素の森のお話し会
  - ④ 8月6・7日(土・日) まちなか探検
  - ⑤ 11月5日(土) 世界と友だち～文化体験～
  - ⑥ 12月10日(土) 書心は武士道心・書道&茶道
- ★プログラムの対象：小学校4～6年生 ★定員おおよそ：40名 ★申し込み締め切り：6月10日(金)まで  
★申し込み先：自分の学校の先生 市教育委員会生涯学習課(TEL0176-23-5111内線6524)新渡戸記念館(TEL0176-23-4430)

新渡戸塾では各講座テーマに沿って、講演・展示・体験・交流の各プログラムを実施します。新渡戸塾の講座の詳細は市広報が新渡戸記念館ホームページをご覧ください。  
お問い合わせ：新渡戸記念館 (TEL0176-23-4430)

国際基督教大学名誉教授  
石川光男先生 講演会 があります  
平成23年11月12日(土) 14:00～15:00 会場：当館  
演題：武士道を支える日本の心 定員40名  
日本人の生き方の原点となる武士道の中に、日本文化の特質を探り、21世紀に活かす道を考えます

## 平成22年度 新渡戸塾モデルスクール事業

平成23年2月2日(水) 十和田市立三本木中学校 『立志式』 新渡戸館長記念講演

平成22年度新渡戸塾モデルスクール事業として、「拓魂」を校是に掲げる十和田市立三本木中学校の2学年の「立志式」において、館長が記念講演を行い、「新渡戸家の精神～稲造博士が残した武士道精神について～」と題し日々の「挨拶」の大切さ、新渡戸稲造博士の“学問より実行 知識より常識”の言葉などについてお話ししました。



## 平成22年度 新渡戸塾 講座Ⅲ 歴史文化遺産に学ぶ大切なふるさと 講演会

平成23年5月21日(土)14:00～15:00 講師：青森県立郷土館 学芸員 昆 政明 氏  
演題：都市環境と人間形成ーふるさと十和田市が私に与えた影響ー

昆氏は十和田市の古写真や昭和40年代の当市の街並みを撮影した貴重なビデオ、地図などを交えて自分の生い立ちにまちの成り立ちがどう影響を与えたかを分かりやすくお話しされました。「十和田市は都市公園の一人当たりの面積が非常に高いということを小さい頃先生から教えてもらい、本当に誇らしく感じたものですが、それも十和田市が開拓で拓かれた計画都市であるからです。美しい街並みへの誇りと、都市計画や建築への関心が後に地理学を専攻し、学芸員となるきっかけをつくったと感じます。子どものころ、稲生川上水については小学校で必ず勉強しましたし、学校の校章にも新渡戸家の月星紋がアレンジされ、自然に土地の成り立ちについて関心を持つことができました。」お話しを聞いた約30名の参加者からは「水が文明を作るといわれますが、お話しを聞いて稲生川上水の意味の大きさを改めて感じた」「開拓の歴史について細部まで知ることができて良かった」などの声が聞かれました。郷土の歴史・地理の教育が人づくり・地域づくりにいかに大切か改めて感じた講演会でした。 ※地震の影響で日程を変更しました。



## 平成22年度 新渡戸塾講座Ⅲ 連携展示

# 収蔵資料展2011 ー新渡戸稲造旧蔵書 調査からの新発見報告ー

■会期：平成23年4月12日(火)～5月31日(火) ※好評につき延長 ■場所：十和田市立新渡戸記念館 一階展示コーナー

平成23年2月中閉館し、新渡戸稲造旧蔵書など約8000冊を含む新渡戸文庫で所蔵していた図書について、目録整理の作業を行いました。その調査で発見した新渡戸稲造博士宛の為書きがある書籍など150冊から一部を展示しました。

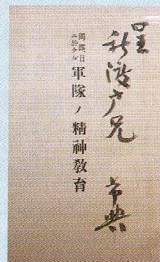
### 【展示したおもな為書き】



後藤新平

新渡戸稲造旧蔵書 『政治と民意』  
ハンス・デルブリュック著／後藤新平  
訳／有斐閣書房 刊／大正4年(1915)  
見開きに記載

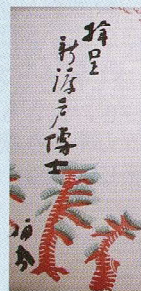
台湾民政長官の後藤新平が新渡戸稲造を三顧の礼で台湾総督府技師(のちに臨時台湾糖務局長)に迎え、台湾の糖業は飛躍的な発展を遂げた。その後も生涯交流は続き、後藤新平は新渡戸の人生に大きな影響を与えた。娘婿の鶴見祐輔は新渡戸の愛弟子。



乃木希典

新渡戸稲造旧蔵書  
『独露日ニ於ケル 軍隊ノ精神教育』  
独逸陸軍大尉 ヘルマン・ミュラー 著  
陸軍歩兵大佐 森邦武 訳／偕行社 刊  
明治43年(1910) 中表紙に記載

新渡戸稲造との交流は新渡戸が台湾総督府に勤務しているとき、乃木が新渡戸を訪ねたのが最初、乃木が学習院院長時代に新渡戸を講演に頼み、新渡戸が第一高等学校校長時代にも乃木が一高を視察に訪れるなど、教育者としての交流があった。



日本画家・竹内栖鳳  
[昭和8年・京都にて稲造博士(左)と]

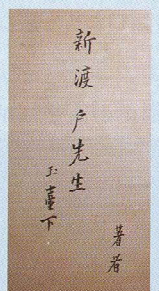
新渡戸稲造旧蔵書  
『日本八景 一六大家執筆』  
大阪毎日新聞社・東京日日新聞社 編／大阪毎日新聞社 ほか 刊  
見開きに記載

※十和田湖の紀行文を泉鏡花、絵を竹内栖鳳が執筆

新渡戸稲造が京都帝国大学教授時代に友人の佐伯理一郎(同志社病院長)の紹介で会い、生涯の友となった。新渡戸はよく好きな詩句の心を画題に栖鳳に絵を描いてもらっており、新渡戸の著書の表紙にもなっている。



写真右上は新渡戸稲造が、従兄弟の新渡戸訓とその妻・トヨにおくった南洋産・赤貝製の「新渡戸印章」



牧口常三郎

新渡戸稲造旧蔵書  
『教授の郷土中心としての総合研究』  
牧口常三郎 著／以文館 刊／大正元年(1912)  
見開きに記載

創価学会の前身である創価教育学会の創立者。地理研究者として、新渡戸稲造の自宅で行われていた「郷土会」にも参加し、柳田国男、小田内通敏などと親交を深めた。

### 新渡戸稲造から養女こと(琴子)と従兄弟・稲雄への為書き

それぞれ新渡戸文庫蔵書『帰雁の蘆』新渡戸稲造 著／弘道館 刊／明治40年(1907)  
※こと(琴子)は新渡戸稲造の姪・磯(稲造の姉・民の娘、稲田家へ嫁いだ)の娘。  
新渡戸稲雄は新渡戸稲造の従兄弟(稲造の叔母・わか)の長男で昆虫学者

EVENT

開催報告

稲生川上水153年記念 太素祭

平成23年5月3日(火)～5日(木)

[共催:観光協会・市・商工会議所・太素顕彰会/協力:十和田観光電鉄株]

稲生川上水153年記念太素祭が太素塚で行われました。天気にはあまり恵まれませんでした。昔なつかしいミニSLの運行や、わがまち出身のシンガーソングライター・桜田まことさんと「八戸せんべい汁」のトリオ★ザ★ボンチョスのステージをはじめ、さまざまなイベントで賑わいました。舞台発表には今年、十和田市少年少女合唱団の合唱と、北園小学校の吹奏楽部の演奏が加わり市民の音楽交流イベントが更に充実しました。

また、新渡戸傳翁をはじめとする開拓の先人たちの稲生川上水の偉業をしのんで5月3日(火)17:00から前夜祭が太素塚墓前で行われ、翌日の上水記念日・5月4日(水)は9:30から太素例祭を開催しました。例祭の後には、十和田市神輿団体連合会が神輿を担いで太素塚を参拝し、お祭りの風情を盛り上げました。

太素祭期間中、新渡戸記念館では“国際博物館の日記念”太素祭クイズ大会「みんなで合格!ニトちゃん検定～未来遺産の巻～」を館内版、ウォーク版、史跡めぐり版の3バージョンで開催し、583名の方が参加、116名が11ポイント以上を獲得して検定合格となりました。また、舞台を使ってその場で景品がもらえる三択クイズを行い好評でした。祭期間中入館は完全無料とし、夜間特別開館を実施しました。

太素祭初日から販売したニトちゃんのチャリティー缶バッジ(売り上げの一部を義援金とします)



水の里とわだ 未来遺産展

■とき 平成23年5月3日(火)～7月31日(日)  
 ■ところ 十和田市立新渡戸記念館一階展示コーナー



「命の水・稲生川」を“未来遺産”として100年後の子どもたちに受け継ぐ活動と、十和田湖・奥入瀬そして稲生川の水はぐくまれた「歴史・文化・自然・食・人」を紹介します。 ※併設する「収蔵資料展 2011」が終了以降、規模を拡大して展示

命の水・稲生川を未来遺産に

稲生川は単なる農業用水ではなく、十和田のまちのルーツであり、地域の歴史、文化に深く根ざした身近な水場として、有形無形の多くの恵みを私たちに与えています。そうした視点から「地域用水」として未来へ受け継ぐ活動が近年行われ、関係団体が各々の分野から取り組んできました。特に、稲生川親水公園における市民の積極的な美化活動や、一本木沢ビオトープでの自然環境復元と創出、啓蒙など、素晴らしい活動が各所で行われています。そうした稲生川を中心とした個々の活動のつながりをもう一度見直し、地域の未来を見据えた共通の志のもと、「未来遺産運動」として力を合わせることを私たちの地域の再生にとって大切であると感じます。

新渡戸記念館では、水土里ネット稲生川(稲生川土地改良区)及び北里大学と一緒にこの運動について検討をはじめました。不毛の大地を開拓した先人たちの志、三本木大火(今年は大火70年にあたります)や十勝沖地震を経験しても立ち上がり、私たちにこの地域を残してくれた祖父母、父、母たちの思い・意志を継いで、私たちも未来のために稲生川という地域遺産を伝えていきたいと思っています。

未来遺産運動を  
紹介して下さい  
前田耕作先生  
前田耕作先生(ISCAアフガニスタン文化研究所所長・和光大学名誉教授)は2009年十和田市を来訪された折、稲生川の価値を高く評価され、未来遺産運動に申請することを勧められました。

未来遺産運動とは

未来遺産運動は、社団法人日本ユネスコ協会連盟が進めている運動です。長い歴史を超えて人々が紡ぎ続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵・工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物に光を当て、それらを100年後の子どもたちに伝えようという人々の意欲の活性化により、時代を切り拓いていこうとするものです。このプロジェクトは、未来に伝えたい地域の文化・自然遺産を守る市民の活動を「未来遺産運動」として登録し、それを推進する地域を日本全体で応援する仕組みをつくることを意図しています。 未来遺産運動 <http://unesco-mirai.jp/>

水の里とわだ・見本市

昨年に引き続き、十和田市の地域特有の活動や産品をあつめた見本市を開催しました。また、今回は新たな試みとしてセーフコミュニティとわだをすすめる会の方々にご協力いただき「安全・安心」の視点から記念館内外を点検して改善策を考え、それぞれの改善ポイントの対応状況を記したカードを掲示して、館内外を身近なセーフコミュニティ実践の見本市としました。

<紹介団体・個人>  
セーフコミュニティとわだをすすめる会/道の駅とわだびあ/南部裂織保存会/十和田むらさき保存研究会/十和田市きみがらスリッパ生産組合/自然栽培農家へらい農園/十和田ふるさとガイドネットワーク/十和田湖自然ガイドクラブ/十和田湖奥入瀬観光ボランティアの会/十和田ボランティアガイドの会/十和田国際交流協会/十和田湖国立公園協会/奥入瀬川水系こども環境サミット/竹ヶ原トミさん/山谷スイ子さん(順不同 敬称略)

<おもな紹介内容>  
稲生川せせらぎ活動委員会による親水公園での活動  
一本木沢ビオトープ協議会の活動/北里大学による研究(研究成果を生かした一本木沢ビオトープ整備事業・親水公園などの市民活動意識評価研究)  
/水土里ネット稲生川の地域用水活動 など



南部裂織・きみがらスリッパ・バオリなどの工芸品や農家の手仕事の紹介コーナー

かつて日本一だった「南部むらさき」の紹介

道の駅とわだびあ「匠クラブ」「皿会」の紹介

# mini NEWS

## 資料の寄贈

・金崎才了さん(青森市)から三本木原開拓100年記念鉄瓶(昭和33年) 1点をいただきました。

## 太素塚清掃奉仕

- ・4月16日(土) 青森県春のクリーン作戦 小さな親切運動 十和田支部様
- ・5月1日(日) さわかクラブ様
- ・5月7日(土) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様

ありがとうございました

## 関連情報

### ▶日本三大開拓地交流を行っている福島県矢吹町へ十和田市から支援物資を届けました

日本三大開拓地交流を行っている福島県矢吹町が、東日本大震災で大きな被害を受けたことから、十和田市は、市建設業協会に依頼して復旧に必要な物資を集め、市が保有していたペットボトル入りの飲料水とともに支援トラックに積み3月24日(木)に発送しました。7:00からの発送式では小山田市長があいさつを行い、協力した建設業協会関係者ならびに市関係者が見送る中、矢吹町に向けて出発しました。



1月16日付東奥日報記事

『日本三大開拓地交流』は大規模国営開拓事業によって発展した歴史的共通点から、福島県矢吹町、宮崎県川南町と十和田市の三市町が交流を行っているもので、現在は年1回交流団が訪問しあっています。今年1月15日(土)～17日(月)には、川南町と矢吹町の子供たちが十和田市を訪れ、記念館でも開拓体験などをしていました。館長はじめ館員一同、矢吹町が一刻も早く復興し、また会える日が来ることを心より願っています。

### ▶東日本大震災直前の生きものの行動

3月11日(金)14:46東日本大震災が発生しましたが、その6～7日前から、それまで池の深いところで冬眠していた太素塚の鯉と金魚が見える場所まで出てきていました。地震直前には一箇所に集まって泳いでいて、例年では4月にならないと出て来ないので「今の時期になぜこんな所にあつまっているのか？」と不思議に思った館長がその様子を写真におさめていました。震災後、写真撮影時間を確認したところ、撮影の直後に地震が発生していることに気がつき、生きものには災害を予兆する力のようなものがあるのではと感じさせる一枚となりました。



3月11日(金) 14:33撮影  
地震直前の鯉と金魚  
水面には薄氷が張っている

### ▶新渡戸記念館が「あおり満喫スタンプラリー」施設になっています

2011年4月23日(土)～7月22日(金)青森DCキャンペーンとして県内参加施設でスタンプを集めて応募すると、抽選でペア宿泊券や県産品などが当たります。当館ではラリー参加の方、先着50名様に「こども武士道シール」をプレゼントしています。(詳しくは青森DCキャンペーンホームページ <http://www.aomoridc.com>)

## ▶「こども武士道」第2弾“今日から実践の巻”好評発売中

新渡戸稲造の武士道の精神を分かりやすく、現代の子どもむけに解説した『こども武士道』の第2弾『こども武士道—今日から実践の巻—』(文・高橋和の助/絵・大垣友紀恵)が講談社より5月に発刊されました。



昨年の寺子屋稲生塾で話をする高橋和の助氏

今回は子どもたちから寄せられたお悩みを武士の知恵で解決するQ&Aを中心に、マンガなどで楽しく、無理なく武士道を実践的に考えられる内容になっており、当館も推薦しています。(館内書籍販売コーナーで取り扱い中)

## 活動報告

### ▶平成23年度第1回太素顕彰会役員会を開催

平成23年4月20日(水)10:30から平成23年度第1回太素顕彰会役員会を十和田商工会館5F会議室で開催しました。平成23年度事業計画及び予算案について審議の上、原案通り可決され、稲生川における市民活動の「未来遺産運動」登録を目指すことについて了承いただきました。

### ▶館長講演会

- ・2011年2月2日(水)三本木中学校2学年対象「立志式」(演題：稲造博士が残した武士道精神) ※詳細3面
- ・2011年5月12日(木)十和田人権擁護委員協議会総会(演題：三本木原開拓と新渡戸三代)

### ▶音楽学博士・音楽評論家として館長代理が活躍



2011年3月7日(月)民音音楽博物館「輝けるロマン派の作曲家たち～リスト生誕200年～展」文化講演会(会場：民音音楽博物館 ミュージアムホール)において館長代理が「新渡戸流“フランツ・リストとロマン派の作曲家”～時代が求めた華麗なる芸術家とその作品について～」と題して講演し、参加者のかたからは「本だけではわからない、リストの実像を深く知ることができた」など好評の声が多く寄せられたとのことでした。また、『音楽現代』3月号(2011年2月15日発行)に特集①生誕200年記念 フランツ・リスト～鋼鉄の作曲家の横顔と音楽「シューマン、ショパン、そしてリスト～3人の相似と相違、その相関関係を探る」と題した評論を執筆しました。

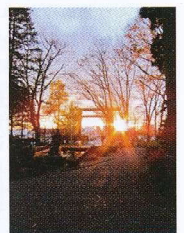
### ▶2011年2月2日(水)～27日(日)集中的に資料目録整理を実施

新渡戸記念館がより良い活動を皆さまに還元するため、1ヶ月休館の上所蔵目録の整理を実施しました。ただし、好評につき1月末まで会期延長した『武士道展』は管理上支障のない範囲で、見学可能として対応しました。

## 編集後記

3月11日M9.0の巨大地震後、大津波は太平洋岸の町を大範圍に呑み尽くし、日本三景のひとつである松島は辛うじて最悪の事態は免れたものの、私も何度も訪ねたあの美しい三陸のリアス式海岸や福島県の松川浦も壊滅した。殊に松川浦には全国的にも珍しいヤンマがあり、昨年は3回も行った場所、私には格別思い出があった。海辺のすぐ近くに位置する多くの湖沼群は海水に浸かったため、トンボのみならず水辺の生物もみな死滅したのだろうか。私はあの黄昏時に活発に飛び回る一面ヤンマだらけの夕暮れの空を再び見たいものだ。日は沈み、また昇る。どんな時も必ず朝日が来る。世の中不安もあるが、不安以上に希望を持つことが大切だと思う。

(館長代理 新渡戸常恵)



■ご利用案内  
 ・開館時間：午前9:00～午後4:00  
 ・休館日：毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29～1/3)  
 ・観覧料：大学生・一般210円(団体178円)  
 小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上  
 十和田市民は観覧料が無料となっています

世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して  
**十和田市立 新渡戸記念館**  
 Nitobe Memorial Museum  
 URL [www.towada.or.jp/nitobe/](http://www.towada.or.jp/nitobe/)

発行日 2011年6月1日  
 編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館  
 〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
 Tel & Fax: 0176-23-4430  
 Email: [nitobemm@hi-net.ne.jp](mailto:nitobemm@hi-net.ne.jp)  
 株式会社 岩間印刷